

劇映画

沖繩

〈白黒スタンダード〉

第一部 一坪たりともわたすまい

第二部 怒りの島



忍従と悲しみの

日々は終わった

民族の魂を

海鳴りにも似た

烈しきでゆきふる



製作／山本薩夫・伊藤武郎 脚本・監督／武田 敦 撮影／瀬川 浩
製作／劇映画「沖繩」製作上映委員会

劇映画 沖繩

第一部 一坪たりともわたすまい
第二部 怒りの島

●スタッフ

製作 山本薩夫・伊藤武郎
脚本・監督 武田 敦
撮影 瀬川 浩
応援監督 橘 祐典

●キャスト

佐々木 愛
地井 武男
加藤 嘉
中村 翫右衛門
飯田 蝶子

●白黒スタンダード 3時間15分

文化座 佐々木 愛

今頃になってこの映画が再上映されるようになった事の、嬉しさと不思議をかみしめています。
今ニュースで浮上した沖繩問題の陰にこのような歴史があった事を、是非多くの方々に見ていただきたいとおもいます。



かいせつ

この作品は本土復帰前の一九六九年に製作上映された作品です。

一九六八年十一月沖繩初の主席選挙で民主統一候補の屋良朝苗氏が当選しました。それは戦後沖繩の歴史を変える素晴らしい出来事でした。

沖繩県民の本土復帰への願いがここに結実したわけです。それから一年、沖繩の日本復帰は大きな高まりを示しました。しかし、アメリカの核戦略基地としての日本復帰であるとすれば、それは平和を守る人々のねがいを歪め、同時に歴史の歪曲も意味します。ここに沖繩無条件全面復帰運動の意義がありました。

第一部では土地を奪われた農民たちの怒りと闘いを描いています。

第二部では教育労働者、基地労働者たちの共通した「民族の自覚に燃えた怒り」を主題に、全編を通じ沖繩の即時無条件全面返還の闘いを描いています。



あらすじ

第一部 一坪たりともわたすまい

アメリカに土地を奪われた島袋三郎は、基地周辺の米軍物資を物色していた。

「ウチナンチュ(沖繩人)のものを盗めば泥棒だが、アメリカカーナのものを盗むのは戦果だ」。これが三郎の生活哲学であった。

アメリカの基地拡張は急ピッチであった。平川部落の強制収収は威嚇射撃で始まった。平川土地を守る会の古堅秀定は、米軍将校に銃をつきつけられ、契約書にサインを強要されたがきっぱりと拒否した。

玉那覇朋子の祖母カマドは戦闘機の機関銃で胸を打ち抜かれ、あたかも軍用地で死んだかのように見せかけられ何の補償もない。

カマドの埋葬は軍用地のなかにあるお墓に白旗ののぼりを立てながら抗議の列となって進んでいった。

第二部 怒りの島

十年後ベトナム戦争であえいでいたアメリカは沖繩を基地にB52を出撃させていた。戦争が激化する中で基地労働者の労働条件は厳しさを増した。働く者の権利を守り、ベトナム人民支援の闘いに組合はストライキを準備していた。三郎は米軍にスト破りのスパイを強要されるが、一蹴した。

朋子の弟の亘は米軍のトラックに跳ねられ即死した。亘の教師は軍事法廷で「アメリカの民主主義のウソ」を糾弾したが、陪審員たちは犯人の無罪を決めた。

ストライキ体制は着々と固められていった。翌朝全基地はシーンと静まりかえっていた。ストライキが決行されたのだった。

第一部 一坪たりともわたすまい (75分) ・ 第二部 怒りの島 (120分)

中国共同映画株式会社

〒700-0837 岡山市北区南中央町1-8
TEL/086-223-0904 FAX/086-223-9844

■www.chugoku-kyodo-eiga.co.jp ■info@chugoku-kyodo-eiga.co.jp